

専門医認定委員会

委員長：鈴木 茂彦

担当理事：中塚 貴志

委員：秋元 正宇、井砂 司、上田 和毅、内沼 栄樹、大西 清
亀井 譲、小坂 正明、多久嶋亮彦、館 正弘、田中 一郎
田中 嘉雄、寺師 浩人、土佐 泰祥、平野 明喜、松村 一
三鍋 俊春、吉本 信也

開催年月日：①平成22年4月8日 ②平成22年9月16日

③平成22年11月26・27日 ④平成23年1月20・21・22日

- 主な議題：1. 専門医申請者の資格審査
2. 専門医認定審査
3. 手引きの改訂
4. その他

- 活動の概要：1. 平成22年度の専門医申請者数は、少なくとも200名以上に急増することが予想されたので、認定審査書類提出期限を2週間早め、書類審査を2日間、また口頭試問を2日間にわたり行う予定とした。受審者にこれらの変更を早期に伝えるため、平成22年3月号に第一報を会告し、詳報は4月号と5月号に会告した。
2. 専門医申請者209名に対し、平成22年11月26・27日に都市センターホテルにて提出書類による資格審査を行った。
3. 資格審査で不合格、書類不備がありとされた申請者からの弁明、書類追加に対し、メール委員会を開き審査した。
4. 資格審査合格者191名に対し、平成23年1月22日・23日にホテルニューオータニにて筆記試験および口頭試問による審査を行った。
5. 専門医審査申請者：209名
資格（書類）審査不合格者：18名
筆記・口答試験不合格者：46名
欠席者：2名
6. 筆記試験問題の一部を問題集から改変し、やや難しくした。前年同様医療問題を1問出題した。また記述式問題を1問出題し、採点には加えないが、口頭試問の際の参考とした。
7. 今回、新研修制度施行後初の専門医認定試験は書類不備（形式上の不備、症例の不備共）が目立ったので、今後の受験者に対し、注意を喚起することとした。（評議員会、総会およびホームページなどを利用する）
8. 手引きの改訂案をまとめホームページに掲載した。
主な改訂点

- ①資格審査（書類審査）不合格者には資格審査料（3万円）を差し引いた審査料を返還する。
- ②術後写真のフォローアップ日数が「6か月以上」と記載されていたのをより明確にするために「180日以上」とした。
- ③10症例を形成外科における優れた技能を示す代表的な症例と規定した。（専門医制度規定第3条）
- ④マイナー症例を平易な手技の症例と定義した。従来は「小さな母斑、腫瘍を切除するような症例」と記載。「瘢痕、瘢痕拘縮、ケロイドでは簡単な症例は避けてください」という文言もあったが削除。レーザー症例もマイナーとする。

*その他種々の改訂点があります

9. 平成23年度も平成22年度と同様に受診者が多くなると思われるので、認定審査書類提出期間を今年同様、例年よりも2週間程度早め、書類審査日程を2日間確保し、口頭試問も2日間にわたり行う予定とした。受審者には早急に知らせた方がよいので、学会誌平成23年3月号に会告として日程を掲載した。